

【個体追跡調査】朝4時半～20時まで続けられ、延べ4日間行ったそうです。

ヒヌマイトトンボの生活

現在知られているヒヌマイトトンボの生息地は全国に35か所しかなく、本種は環境省の絶滅危惧1類に指定されています。その生態や生息環境などについてはほとんど知られておらず、まずは基礎データを集めることから始めなくてはなりませんでした。

平成12年6月、ヒヌマイトトンボがヨシの中でどのように過ごしているのかを調べるため、発見された生息地でヒヌマイトトンボの行動調査が行われました。一人が一匹のトンボを観察し、飛翔回数、距離や繁殖行動などを記録していくのです。

集められたデータから、ヒヌマイトトンボは一生をこのヨシ群落で過ごすということなどがわかり、少しずつヒヌマイトトンボの生活のようすが見えてきました。

どんなトンボ？

ヒヌマイトトンボは体長3センチほどの大変小さなイトトンボです。成虫のヒヌマイトトンボが見られるのは、5月の終わりから8月の初めまでです。そのなかでも6・7月は成虫がたくさん見られます。

羽化したばかりのときはオスもメスも似た灰色をしています。翌日には色がつき始めます。地域によつてはオスとメスが同色のものも見られますが、ここでは羽化して5日後、成熟期に入るとオスは黄緑色に、メスは褐(オレンジ)色に変化し、交尾や産卵などの繁殖行動を始めます。飼育実験からヒヌマイトトンボの生理的寿命は30日ほどであることがわかりました。しかし、野外では外敵に捕食されるなどの理由で、寿命は平均75日ほどとなっています。

ヒヌマイトトンボの特徴



ヨシの茂みの中の暗い場所を絶好のすみかとしています。ヨシの根本の近くに止まっています。

イラスト 自然史教育談話会 味村 泰代さん

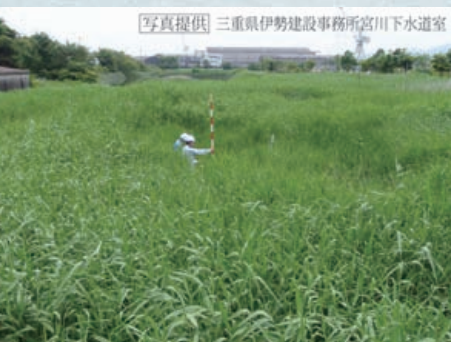
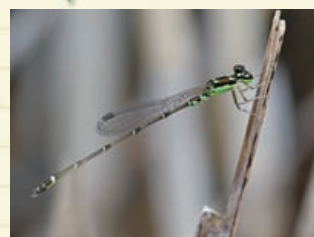
ほとんど飛び回ることではなく、飛んでも1回に20センチほどしか移動しません。



メス
額にはひし形の模様があります。



オス
背中には4つの緑の点があるのが特徴です。腹の先に緑のリングがあります。



写真提供 三重県伊勢建設事務所宮川下水道室

【ヨシの生育調査】宮川下水道室職員によって調査されています。今では、保全ゾーンに植栽されたヨシは、発見された生息地と変わらない密度になってきました。



【保全ゾーンに植栽したヨシ(平成15年4月)】まだ芽が出始めた状態。四角い石が並べてるのは、調査するための観察路です。

